

深まりゆく秋の街なかを練り歩く武者行列

11月12日、市役所周辺で第38回行田商工祭・忍城時代まつりが行われました。

商工会議所が毎年主催しているこの祭は、地元商工業者による物産大バザールをはじめ、さらさら獅子舞、火縄銃演武などのイベントが目白押し。また、甲冑に身を包み歴代の忍城城主に扮した武者行列が、深まりゆく秋の街なかを練り歩くと、多くの観客が沿道に集まり、写真を撮ったり声を掛けたりしていました。



初動対応の動きを確認

11月18日・19日の2日間、県立総合教育センターで行田市防災訓練が行われ、市内自治会から185人が参加しました。

今回の訓練では、救助資機材使用訓練や仮設トイレ設置訓練の他、災害図上訓練(クロスロード)などを実施。参加者らは、自助・共助が求められる災害発生時にも落ち着いて行動できるよう初動対応の動きを確認していました。



日本遺産の活用方法を学ぶ

11月5日、日本遺産セミナーが「みらい」文化ホールで開催されました。

第1部では日本遺産審査委員を務めているデービッド・アトキンソンさんから外国人旅行者を意識した日本遺産の活用方法として、解説の表示方法や体験事業の推進などがユーモアを交えながらアドバイスされました。

また、第2部では日本遺産の先進地足利市で地域振興に取り組んでいる大竹均さんと田野好子さん、本市の足袋蔵の再活用に取り組んでいる朽木宏さんが、それぞれの取り組みと今後の展望について講演。日本遺産活用に期待を寄せる参加者は熱心に聞き入っていました。



命をつなぐサケに歓声

11月11日、独立行政法人水資源機構による「サケ遡上・採卵観察会」が利根大堰で開催されました。

採卵会では利根川を遡上するサケについて説明があった後、魚道から採卵に使うサケを捕まえ、職員が受精させました。

また、大堰自然の観察室では魚道を遡上するサケが元気よくジャンプするたびに大きな歓声が上がっていました。



日頃の活動成果を発表

11月11日・12日の2日間、コミュニティセンターみずしろで「みずしろフェスタ2017」が開催されました。

この催しは市内で活動するNPOやサークルなどの団体が日頃の活動成果を発表するもの。今年もフラダンス、ジャズ演奏などのステージの他、ゼリーフライや手作りの雑貨販売、フリーマーケットなどが出展しました。来場者は各団体の活動発表や出展ブースを巡り、市民活動への理解を深めることができたようです。



地域で親しまれてきた南河原はつらつ音頭を披露

11月3日、南河原中学校駐車場で第12回南河原ふれあい祭りが開催されました。

会場には、南河原商工会や南河原地区青少年育成会、会員企業などのブースが立ち並び、子どもから大人まで多くの人出でにぎわいました。さらに、JAほくさい女性部南河原支部が南河原はつらつ音頭を披露。会場を巻き込み、堂々と踊りました。他にも、中央の特設ステージで「ポニョブロコ」によるサンバや会場内で小学校PTAによるダーツなども行われ、地域の交流を深めることができた1日になりました。



話題を呼んだ10周年の田んぼアートを刈り取り

11月15日から今年の田んぼアートの絵柄部分の稲刈りが、田んぼアート米づくり体験事業推進協議会委員の農家の皆さんによって行われました。「イナダヒメノミコト」などを描いた10周年目の田んぼアートのお米は今年も豊作。来年はどんなデザインになるのか今から楽しみです。



未来に残す森を育てるために

11月11日、古代蓮の里北側駐車場で行田市森づくり環境再生実行委員会による「樹名板づくり(第12回育樹祭)」が開催されました。

用意された木の板にカラフルなペンを使い、木々の名前を書き入れてオリジナルの樹名板を作製した参加者。植えてから7年経過し、自分たちの身長よりはるかに大きくなった木々に驚きながら、未来に残る森になるようお願い、樹名板を取り付けていました。